

令和2年8月

## 普及活動報告

---

### 有機農業を担う新規就農者が誕生 ～亀岡市で実践農場修了式を開催～ (亀岡市：6日)

普及センター所長、市農林振興課長から修了証書が手交された後、関係機関、指導者、後見人から激励の言葉と修了生から決意表明がありました。

激励の言葉には「今後は経営面での苦労もあると思うが頑張してほしい」「自分一人ではうまくいかないことも多い。周囲の農家に助力を求めてほしい」等がありました。修了生は「有機農業の仲間を増やせるよう頑張っていきたい」と決意表明をされました。普及センターは今後も修了生の経営の安定に向け支援していきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 13名

亀岡市での実践農場（準備型）開始数：平成29年度1名、30年度2名、令和元年度1名

---

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年8月

## 普及活動報告

### 施肥増によるWCS用コシヒカリの多収を目指して

(南丹市：11日)



WCS用にラッピングされたコシヒカリ

美山町鶴ヶ岡地区の(有)タナセン農事部では、3年続けて同一ほ場でWCS用にコシヒカリを生産していますが、飼料イネは子実だけでなく茎葉も利用するため地力が低下し、収量の確保が困難となっていました。

そこで、施肥増による増収を目指した調査を行いました。昨年まで2年続けて低収のほ場で、今作は施肥量を増やし自走式散布機でむらなく追肥を散布したところ、収量が増え、収穫を担当したオペレーターから「昨年よりロール数を多く確保できた」との声がありました。

今後も普及センターはWCS用コシヒカリの多収に向け支援していきます。

＜収量＞ 一作目（一昨年）3.1ロール  
二作目（昨年）3.6ロール  
三作目（今年）6.1ロール/10a

場 所 南丹市美山町  
出席者数 2名

南丹市美山町では約5haの水田でWCS用水稻が生産され、乳牛の抗酸化ビタミンを含む飼料になっています

※WCS(ホールクロップサイレージ: Whole Crop Silage)とは、  
稲の葉と茎葉を同時に収穫し、牛の飼料用に乳酸発酵させた貯蔵飼料です

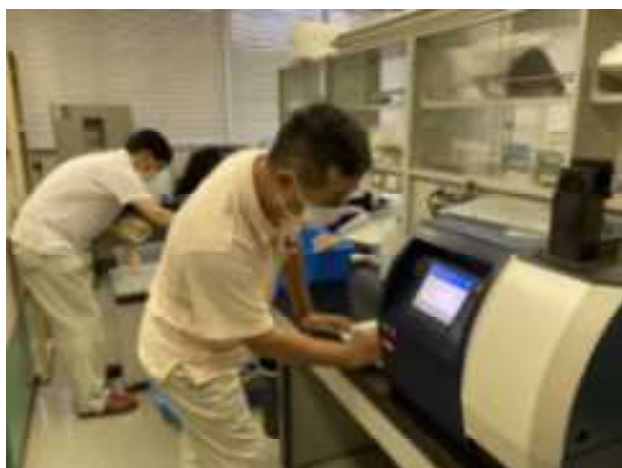
京都府南丹農業改良普及センター

令和2年8月

## 普及活動報告

### 小麦新品種「せときらら」のタンパク含量を調査

(11日)



分析機器による小麦タンパク含量測定  
(生物資源研究センター内)

小麦新品種「せときらら」の実肥省力化のため、試作肥料（基肥に施した窒素成分が実肥の施用時期まで溶出するタイプ）の現地実証を行い、その施肥効果を確認するため、小麦のタンパク含量を測定しました。また、併せて管内の主な産地の小麦のタンパク含量を測定しました。

今後は、現地実証先の農業法人とともに、今回の調査結果と収量や栽培履歴等を照合し、試作肥料の効果や実用性（品質向上・省力・低コスト）を検討します。

場 所 生物資源研究センター  
出席者数 3名

令和2年 小麦新品種「せときらら」栽培面積（南丹管内）約40.8ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年8月

## 普及活動報告



調査の様子

### 水稲におけるトビイロウンカ発生状況を調査

(全域：18日)

中国大陸から飛来し、中生・晩生品種の水稲を中心に「坪枯れ」による甚大な被害をもたらす「トビイロウンカ」が西日本で広く認められているため、管内での発生状況調査を行いました。

今回は3班体制で亀岡市、南丹市及び京丹波町の計17地点、20ほ場を調査し、トビイロウンカを見たことのない若手職員の研修も併せて行いました。

調査した20ほ場中11ほ場で増殖型である短翅型雌成虫を確認しました。今後、中生・晩生品種の「祝」「京の輝き」「ヒノヒカリ」などでは坪枯れが発生する恐れがあります。普及センターでは、「京都丹波良食味推進協会」でのメール配信、「祝」の収穫期に向けた研修会や農家巡回等で防除の実施を啓発し、トビイロウンカによる被害の低減に努めていきます。

令和2年度南丹管内栽培面積：「京の輝き」約75ha、「祝」約5.5ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年8月

## 普及活動報告

### 液肥施用WCS用イネ(夢あおば)の収穫期調査を実施～地域バイオマスの有効活用を目指して～

(京丹波町：24日)



稈長測定の様子

普及センターでは、調査研究課題として京丹波町とともに「液肥」利用の検討に取り組んでいます。今回は、京丹波町でWCS用イネとして栽培されている飼料用米「夢あおば」ほ場の収穫期調査を行い、液肥施用ほ場と慣行肥料施用ほ場を比較するため、それぞれの稈長、穂長、穂数、倒伏度及び新鮮重を計測しました。

収穫は8月28日(金)に予定されています。今後は、これまで行ってきた液肥に含まれる成分量の調査や田植え後40日調査、出穂期調査及び今回の結果を踏まえ、「液肥」の有効活用について考察を進めます。



新鮮重測定の様子

場 所 京丹波町  
出席者数 4名

京丹波町は町内バイオマス有効活用のため「メタン発酵・堆肥化複合施設」の建設を検討中。「液肥」は八木バイオエコロジーセンター産のものを利用

令和2年8月

## 普及活動報告



祝栽培ほ場の前で研修



生育状況を確認する参加者

### 京丹波町で2回目の「祝」現地研修会を開催

(京丹波町：25日)

京丹波町では今年度から酒造好適米「祝」の生産に取り組んでおり、生産者を対象にした2回目の現地研修会が開催されました。

5月21日に定植され、穂揃期を迎えた「祝」栽培ほ場において、JAと生産者から栽培概要が説明された後、普及センターからは収穫期に向けた栽培管理や収穫・乾燥調製について説明しました。また、管内で確認しているトビイロウンカの発生に注意を呼び掛けました。

参加者からは、胴割米が発生しにくい乾燥方法や粳すり機の設定方法などの質問があり、高品質な酒米生産に向けた熱意が感じられました。

場 所 京丹波町下山  
出席者数 8名

令和2年度栽培面積（京丹波町）4.13ha、生産者数8（組織・個人）

令和2年8月

## 普及活動報告

### 国際水準GAPについて学ぶ ～環境保全型農業直接支払交付金に係る 研修会～

(南丹市：26日)



熱心に受講する参加者

「環境保全型農業直接支払交付金」の交付要件として「国際水準GAPの実施」があり、その取組みの一つとして研修会が開催され、普及センター職員が講師を務めました。

研修会では南丹市から環境保全型農業直接支払交付金について説明の後、当センター職員が農林水産省のテキストをもとにGAPについて説明しました。

参加者からは、「GAPについてよくわかった」「GAPと有機農業の関係は？」等の感想や質問がありました。参加者らは研修で学んだ内容に基づくGAPの取組みや課題を決めて実践していく予定です。

場 所 美山文化ホール  
出席者数 8名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年8月

## 普及活動報告

### 直売所の目玉商品づくりを目指して ～丹波高原朝採り野菜部会が栽培研修会 を開催～

(京丹波町：27日)



朝市の売り場で行われた研修会

部会員38名(うちエダマメ栽培者：27名)、  
エダマメ販売金額：1,650千円(令和元年  
朝市全体の販売金額の11%)

新型コロナウイルスの影響により、地域の主要イベントが軒並み中止される中、主力品目の黒大豆枝豆を目玉商品として売り出す取組みとして、初夏から秋にかけて長期間に亘り出荷するための栽培研修会が開催されました。普及センターからは栽培のポイントや注意点について説明しました。また、観光協会「地域商社事業部」の担当者からは売れ筋の野菜や販売方法の工夫等について報告されました。

参加者からは堆肥の種類や防除薬剤についての質問が出され、黒大豆枝豆栽培への関心の高さが窺えました。この秋には、黒大豆枝豆等の販売促進イベントの開催が予定されており、普及センターは引き続き、直売所販売額の維持・拡大に向け支援をしていきます。

場 所 丹波マーケス  
出席者数 27名

京都府南丹農業改良普及センター